

文部科学省受託事業

令和6年度「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出すモデル創出事業

未来を育む幼児教育・保育体験

01__札幌国際大学・札幌国際大学短期大学部

第1章 事業全体概要

1. 本事業に取り組むにあたっての課題背景

幼稚園教諭不足の現状の改善に取り組むために、昨年度から幼稚園教諭等の魅力を中高生に伝えてきた。

昨年度本学が採択され実施した「幼児教育の楽しさを感じる直接体験を生み出すキャリア支援事業」では、中高生に幼児教育の魅力を伝えるためには、子どもとの直接のかかわりが最も効果的であるということを明らかにした。また、現職者の支援では、幼児教育・保育技術のスキルアップの講座や悩み相談によって他園の幼稚園教諭との交流が効果的であったことなどが明らかになった。

しかし、幼児教育・保育の魅力を伝えるためには、このプログラムの回数を増やし、さらに多くの中高生に体験してもらうことが必要であることが課題として残った。

また、前回は札幌市内の中高生だけであったが、北海道の地域性を考慮したプログラムにすることを目指して、地方の養成校との連携、養成校がない地域の幼稚園団体との連携での幼児教育・保育体験プログラムを構築することが必要であると考えた。更に、少子化の現状では、潜在幼稚園教諭の掘り起こしということも重要な課題であるが、この点について十分な取り組みができなかったことも課

題として残った。

2. 本事業の目的

テーマ①では、少子化の中で育つ小中学生にとっての幼児教育・保育職の魅力発信は、幼児と直接かかわる体験が効果的であることから、小中高生に多くの幼児教育・保育体験の場を提供し、幼稚園教諭を目指す裾野を広げることを目的とした（A）。また、オープンキャンパスにおいて多様な模擬授業、個別相談などで中高生の興味・関心に応えた（B、C）。

テーマ②では、学生の幼児教育・保育職への動機付けの強化や自分の将来のイメージを持つことは、幼児教育・保育職への不安解消にもなることから重要である。世代別のロールモデルとなるようなOGとの交流は有意義なものとなる（A）。そのような交流の中で、養成校生が中高生に実習体験の話をするなど、幼児教育・保育職の魅力や幼児教育・保育を学ぶ魅力を伝えることを目的とした（I）。

テーマ③では、現役教員や離職者のスキルアップや知識のアップデートは、現職者には仕事を長く続けるため必要であり（K）、離職者は、仕事復帰のための不安解消に必要である（L）。以上のことから、現職者、離職者にとって有益なワークショップについて検討することを目的とした。18歳人口が減少する中で、離職者の職場復帰は人材確保にとって重要である。また、他業種からの流入を促す社会人入学について検討し（M）、離職者向けや社会人入学を促すためのリーフレットを作成することを目的とした。

第2章 各取組の実施内容・成果

1. 幼児教育・保育職体験＋アクティブラーニング型ワークショップ

(1) 取組内容

- ・こどもたちと一緒に遊ぼう幼児教育・保育職フェス（8月7日、8日、9日）

本学と本学附属認定こども園において、子どもたちと遊び体験と養成校生との交流（仲良しランチ）を行った

- ・幼児教育・保育職わくわくイベント（10月27日、11月9日）

10月27日は、本学と本学附属認定こども園において、「わくわくさんと制作あそび」、「仲良しランチ」、「あべ弘士氏講演＆ワークショップ」を開催した。11月9日は、本学において「こども向けダンス」と「ICTで幼児教育・保育がもっと楽しくなる講座講座」、「仲良しランチ」を開催した。

・地方との連携（11月2日、12月7日）

帯広・・・帯広短期大学部との連携「わくわくさんと制作あそび」を開催した。

北見・・・認定こども園北光幼稚園との連携「リズムジャンプ」を開催した。

(2) 各取組の対象者、参加者人数

イベント日	イベント内容	中高生	養成校学生 (他学)	保護者	社会人(幼児 教育・保育 職・一般職)	計
8月7日	制作あそび(年長児と遊ぼう)	17	対象外	2	対象外	19
8月8日	運動あそび(年中児と遊ぼう)	10		1		11
8月9日	幼児教育・保育職体験(付属 認定こども園)	23		2		25
10月27 日	わくわくさんとの工作 絵本作家あべ弘士氏 講 演・ワークショップ	32	6	1	54	93
11月2日	わくわくさんとの工作(帯広)	28		0		28
11月9日	ダンス好き集まれ! 幼児教育・保育 ICT 講座	7		2	14	23
12月7日	幼児教育・保育体験(北見)	6		0		6
	参加者計	123	6	8	68	205

(3) 各取組のポイント

・幼児教育・保育体験・・・中高生がこども、養成校生とかかわることで、幼児教育・保育職についての興味・関心を高めることを目的とした。関わる際には、養成校生がサポートに入ること
で、中高生が安心して子どもとかかわることができることで、幼児教育・保育に対してポジティブな印象になるように配慮した。

・仲良しランチ・・・中高生と養成校生と一緒にランチすることで、学生生活、アルバイトなどについて話すことで、養成校生になることの見通しを持つことができる。また、現職者からも中高生や養

成校生と話がしたいとの要望があったので、11月9日のイベントの際には、現職者、中高生、養成校生で仲良しランチを行った。現職者からは、養成校生や中高生の様子をし知ることができて有意義であったという感想がみられた。

・わくわくさんと制作あそび、あべ弘士講演&ワークショップ、ダンス体験、幼児教育・保育 ICT 講座・・・中高生に対しては、幼児教育・保育に興味がある中高生だけではなく、その他の中高生にも裾野を広げることも意図してわく「わくさんの工作」や「ダンス」を取り入れた。現職者については、スキルアップにつながるようなアクティブラーニング型の講座という視点で計画した。

・地方との連携・・・帯広では、札幌と同様に「わくわくさんの制作あそび」を開催した。中高生のみ参加であったが、地元の短大との連携ということで札幌と同じプログラムを本学の教員と学生と地元養成校教員と学生が運営した。北見では、本学の教員と学生と地元の認定こども園と連携して、昨年行った「リズムジャンプ」のプログラムを開催した。本学で構築したモデルプログラムを地方の養成校や幼稚園と連携するためには、どうしたらよいかを検証した。

2. 離職者職場復帰支援、社会人入学促進リーフレット

(1) 取り組み内容、ポイント

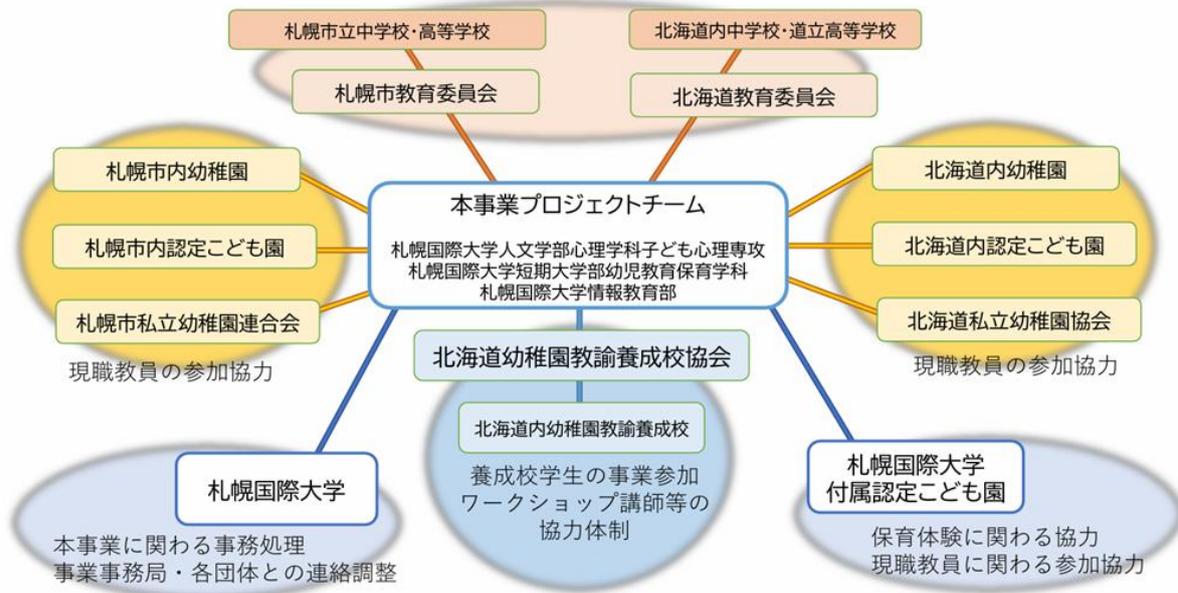
・離職者向けのリーフレット・・・離職者が復職するためのサポートとなるためのリーフレットを作成するというので、現場を離れていた人が復職する際にどのようなことが知りたいのかという視点で作成した。具体的には、今の幼児教育・保育のポイントや復職した人のアンケートで復職への不安解消や職の魅力の再発見となるような内容とした。復帰をサポートしている札幌市や札幌市立幼稚園連合会とも連携した。

・社会人入学を促すリーフレット・・・異業種などから流入、社会人の学び直しという視点から、長期履修をはじめとする豊富な支援制度や負担が少ない入試を紹介するリーフレットを作成した。

3. 各取組の実施体制

全体的な体制図として次の図の通りである。

(小) 中高生の事業参加への協力体制・離職者向けの情報発信



どの取組も基本的にこの体制で行った。運営の中心となるのは本学とし、中高生の参加者募集には、札幌市教育委員会や北海道教育委員会の協力を得た。また、現職者の参加者募集には、札幌市私立幼稚園連合会、北海道私立幼稚園協会などの協力を得た。地方との連携では、帯広大谷短期大学、帯広ひまわり幼稚園、北見では認定こども園北光幼稚園の教諭に運営の協力、園児、保護者に参加協力をお願いした。

(5) 各取組の実施報告

取組は次の通りすべて終了しており、参加者などは前述した通りである。

- ・ 中高生対象：8月7日、8日、9日「夏休み幼児教育・保育職体験フェス」①AB ②CDI
- ・ 中高生、現職、離職者対象：10月27日 わくわくさんとの工作、絵本作家あべ弘士さんのワークショップ①AB ②CDI ③JKL
- ・ 中高生対象：11月2日 わくわくさんとの工作 in 帯広（帯広大谷短大との連携）①AB ②CD
- ・ 中高生、現職、離職者対象：11月9日 ダンス好き集まれ！ 幼児教育・保育 ICT 講座①AB ②CDI ③JKL
- ・ 中高生対象：12月7日 幼児教育・保育体験 in 北見（認定こども園北見北光幼稚園との連携）①AB ②CDI
- ・ 離職者向け・社会人学のリーフレットの作成・配布③L・M

(6) 効果検証の手法

効果検証は、参加者のアンケート調査で行った。質問内容は次の通りである。

参加前の幼児教育・保育への関心度、幼稚園教諭等を目指しているか、参加後の幼児教育・保育への関心への変化、イベント内容の満足度、今後の幼児教育・保育体験への参加希望とイベント内容の希望について等、全16項目であった。

(7) 各取組の成果と課題

1) 幼児教育・保育体験

① 幼児教育・保育職フェス（対象者：中高生）

日時：2024年8月7日、8日、9日 10時～13時

場所：札幌国際大学、札幌国際大学附属認定こども園

参加者：札幌市内、札幌市近郊、苫小牧市中高生51名 札幌国際大学附属認定こども園園児

参加者のうち95%が幼児教育・保育に関心がある中高生だったが、関心がないと答えた中高生も5%いた。イベントに参加した後に興味・関心がどうなったかを質問した。91%が興味・関心が増した、9%が以前と変わらず興味・関心があるという結果になった。このイベントには幼児教育・保育に興味があるわけではないが、友だちの付き添いで来たという人がいるので、このようなイベントがきっかけ幼児教育・保育に興味をもってもらうことで裾野を広げていくことが重要である。参加者で幼稚園教諭等を目指しているのは、67%、まだわからないが22%、目指していないが11%であった。まだわからないと目指していない層がこのようなイベントを通して幼児教育・保育に関心が高まっていることがわかった。またこのような幼児教育・保育体験に参加したいかという質問に対して87%が参加したい、13%がわからないとの回答であった。この結果から、中高生に継続的に幼児教育・保育体験イベントに参加してもらうことで幼稚園教諭等・保育職を目指す動機付けの強化になると考えられる。

② 「わくわくさんの制作あそび」「あべ弘士氏の講演とワークショップ」（対象者；中高生、現職者）

日時：10月27日 10時～15時

場所：札幌国際大学、札幌国際大学附属認定こども園

参加者：札幌市内、近郊の中高生32名、他校養成校生6名、現職者54名 合計93名 札幌国際大学附属認定こども園園児

「わくわくさんの制作あそび」では、参加者の60%が幼稚園教諭等を目指しており、目指していない20%、まだわからないが20%であった。幼児教育・保育に興味・関心があるは97%、普通3%であった。今回のイベントでは、ほとんどが幼児教育・保育に興味・関心があるが、幼稚園教諭等を目指すかどうかはわからないが40%であった。イベント後には、興味・関心が増したが89%、変わらないが11%であった。イベントを通して中高生の興味・関心は高まった。

「あべ弘士氏の講演とワークショップ」では現職者が多く参加した。ワークショップの良かった点では、「実際に動物園で働いていたからこそその目線で動物の話、絵の話をしてくださり、具体的に為になり、明日からでも自園で活用できる内容でした。」「大好きな作家さんのお話を聞いて大変有意義でした。絵柄そのまま、作品そのままの人だなと思いました。動物が大好きで、絵を描くことが大好きなあべさんのお話を聞いて、嬉しかったです。ライブドローイングみたいに見られたのも感動しました。動物の描き方、見方、参考になりました。ありがとうございました。」というような動物のことを詳しく知れた、動物の見方、描き方がわかったというような内容の感想が多くみられた。現職者にとって、絵本作家さんのワークショップは、プロならではの見方、描き方を学ぶ良い機会であり、それを現場で活用できるスキルアップの機会となった。

③ 「わくわくさんの制作あそび」 in 帯広（帯广大谷短期大学との連携）

日時：2024年11月2日 10時～13時

場所：帯広ひまわり幼稚園

参加者：帯広市内、近郊の中高生 28名 帯広ひまわり幼稚園児

帯広会場イベントでは、わくわくさんの部分は工作内容は異なるが、基本的には子どもと中高生と一緒に工作するというスタイルは札幌と同様であったが、園の現職教諭、養成校生への質問コーナーも設けて、中高生、養成校生、現職教諭との交流の機会を設けた。

幼稚園教諭等を目指しているかという質問には、目指している28%、まだわからない48%、目指していない24%であった。参加者に高校3年生がいないということで、まだわからないという回答が多かったと考えられる。幼児教育・保育に興味・関心があるかという質問では、関心があるが64%、普通32%、あまり関心がない4%であった。参加後に興味・関心が増したのは80%、参加前と変わらない20%であった。興味が増した理由としては、「子どもとかかわれて楽しかったから」、「わくわくさんの工作が楽しかったから」、「幼稚園教諭や養成校生の話が聞けたから」ということが多くみられた。参加前とかわらないという中には、子どもが苦手だからという理由がみられた。また幼児教育・保育体験があれば参加したいかという質問には、参加したい72%。わからないが28%であった。以前に幼児教育・保育体験に参加したことがあるかという質問には、1名だけ参加したことがあるという回答であった。このことから帯広ではあまり幼児教育・保育体験ができるような機会がないようである。そうであれば、今後地方でのこのようなイベントの開催をすることで、幼児教育・保育職への興味・関心を高めることができると考えられる。

④ 「ダンス好き集まれ」 「幼児教育・保育 ICT 講座」

日時：2024年11月9日 10時～15時

場所：札幌国際大学

参加者：中高生7名、現職者14名、札幌国際大学附属認定こども園児

「ダンス好き集まれ」では、昨今、中高生にダンスは大変人気が高いということで、ダンスに興味

がある中高生が子どもとの関わりを通して幼児教育・保育に関心をもつことで、幼児教育・保育を志望する中高生の裾野を広げたいとの意図をもって開催した。当日、感染症の流行などもあり、欠席が多くみられた。中高生に幼稚園教諭等を目指しているかどうかを聞いたところ、75%が目指している、まだわからないが25%であった。幼児教育・保育に関心があるとの回答は100%であった。当初、幼児教育や保育に関心はあまりないけれど、ダンスが好きなので参加したというダンス好き中高生も参加してほしいという目的は果たせなかった。

プログラムに参加後、興味・関心が増したが81%、参加前と変わらず興味があるが19%であった。中高生の感想から「子どもと関わりながらダンスすることができてとても楽しかったです」、「子どもと一緒にダンスの楽しさを共有することができた フリができた時の喜びを分かち合うことができた」、「子ども達とダンスで関わることでより交流が深まる点」のように、ダンスを通して子どもとのかかわりが深まったことがうかがえた

現職者からは、「プロの方から学べる面白さを感じました。」、「魚を捕まえたり、虫をたたいたりする動きをダンサーたちが子供たちに説明する様子を見るのがとても楽しかったです。」、「ダンスを習うのが初めてだったので、新しいジャンルに挑戦するのが楽しかった。」というようなプロから教えてもらうということで、新たな視点に気付かされたという感想が多くみられた。

「幼児教育・保育 ICT 講座」では、研修内容に満足したが76%、やや満足した24%であった。講座の良かった点では、「子どもとの作品づくりの幅が広がった。」「自分では、なかなかICTを活用したあそびの選択ができないので、紹介をしてもらい実際に体験して、自分の幼児教育・保育に取り入れたいと思うきっかけとなった。」、「いいアイデアがたくさん出たので、勤務先の幼稚園で活用するのが楽しみです。」などのICT活用方法を知ることによって幼児教育・保育を豊かにすることができるというような感想が多くみられた。

中高生、現職者にこのようなイベントに今後参加したいかを質問したところ、参加したいが90%、わからないが10%であった。以上のことから中高生、現職者の両方にこのようなイベントが求められていると考えられる。

⑤「リズムジャンプ」 in 北見（認定こども園北光幼稚園との連携）

日時：2024年12月7日 13時～14時半

場所：認定こども園北光幼稚園（北見市）

参加者：高校生6名、北光幼稚園園児、保護者

北光幼稚園でのイベントでは、「リズムジャンプ」という運動遊びを中高生と園児で体験するというプログラムであった。参加した高校生は高校1年生が5名、高校2年生は1名であった。幼児教育・保育に興味・関心を持っているか質問したところ、興味・関心がある83%、やや興味・関心があるが17%であった。プログラム参加後に興味・関心はどうか変わったかを質問したところ、興味・関心が増したが100%であった。このプログラムの良かった点を聞いたところ、「リズムジャンプを通して子どもとハイタッチするなどコミュニケーションがとれたところ」「子どもと身体を動かし

て遊んで楽しかった」「子どもとかかわる機会が少ないので、リズムジャンプを通して話せたことがよかった」など、イベントを通して一緒に遊ぶことができたことが高校生にとって幼児教育・幼児教育・保育への興味・関心が高まる要因になっていることがうかがえた。また、帯広と同様に、地方での幼児教育・保育の体験やイベントの機会が少ないという地方共通の課題が明らかとなった。

2) 離職者向けリーフレット作成・配布

離職した幼稚園教諭が、現場復帰をするためのサポート支援になるようなリーフレットを作成した。リーフレットの内容は、幼児教育・保育から離れブランクがある方に向けて、「今の幼児教育・保育のポイント」や「復職者のアンケート」から復職した理由や復職しての感想などについて掲載した。また、札幌市の幼児教育・保育人材紹介事業、札幌市私立幼稚園連合会の復職についてのQRコードを載せるなど連携を図っている。配布については、本学の同窓会の郵送物などに入れて発送する予定である。

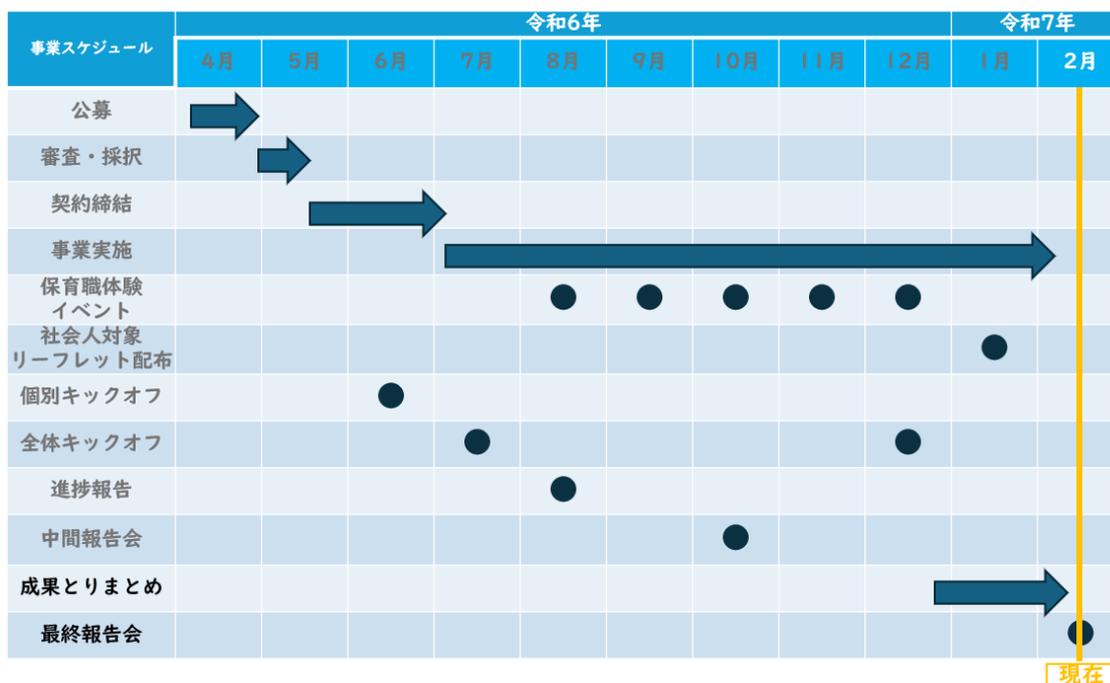
3) 社会人向け入学のリーフレット作成・配布（異業種からの流入の促進）

社会人が免許・資格取得に向けて学ぶということで大事なものは、時間と金銭的問題であると考えた。その両方を解決するためには、長期履修が適切であるという考えから、長期履修を強調したリーフレットを作成した。リーフレットは、幼児教育・保育現場で無資格で働いている方に向けて、本学の実習先である認定こども園、幼稚園に送付した。

第3章 事業全体のまとめ

1. 全体スケジュール

全体スケジュールは次の表の通りである。今年度のイベントは8月、10月、11月、12月に7回開催したので、本事業が採択された6月から準備をはじめイベントを開催、次のイベントの準備と開催を繰り返して行った。そのためリーフレットなどはイベント終了後に着手となった。



2. 事業全体の成果

事業全体の成果としては次の通りである。

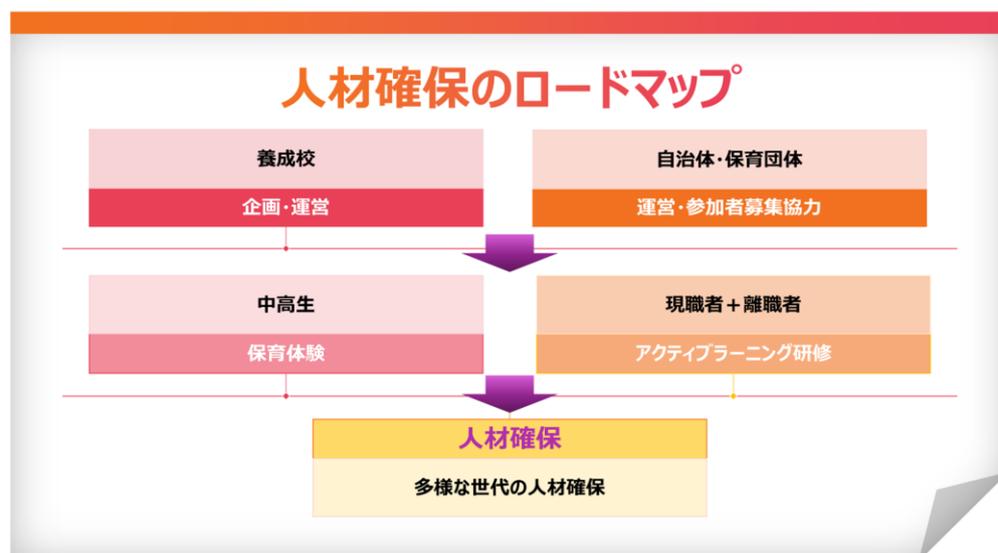
(1) 幼児教育・保育職体験・・・イベントの満足度の高さやイベント後に幼児教育・保育への興味・関心が増加していることから、中高生にとって子どもとかわることができる体験が求められている。その際に、ただ子どもと関わるというのではなく、養成校生がサポートに入り安心して子どもとかわることができることが重要であることが明らかになった。しかし、このイベント参加者の高校3年生がすべて養成校に入学しているかということに対しては全員の追跡調査はできていないが、参加者から本学に入学している高校3年生もみられた。今年度の入学生はまだ確定していないが、高校生数が減少しているなかで横ばい状態であることから成果はみられると考えられる。

(2) 現職者のスキルアップ講座・・・アクティブラーニング型の研修を通してスキルアップと幼児教育・保育を豊かにするアイデアをプロ講師から学べたという感想が多くみられたことで成果があったと考える。また、今年度参加者が昨年度の2倍となったことから成果があったということがいえる。

(3) 地方との連携・・・北海道という広域において、地方との養成校、幼稚園との連携ということについても、そのモデルを構築できたと考える。地方の養成校では、運営に対してのマンパワーなどが十分でない。本学と連携することでその部分を補うことができる。また、養成校のない地域では、幼稚園と連携することで運営の主たる部分を本学が行い、補助的な部分を幼稚園教諭が補うことで開催できることが実証された。

以上のことから、今年度の事業を通して人材確保をするためには、養成校や自治体、幼児教育・保

育団体などが協力して企画、運営、参加者募集を行い、中高生に幼児教育・幼児教育・保育体験の提供、現職者にはアクティブラーニング型の研修を行うことが有効であることが明らかになった。その際に、中高生、養成校生、現職者の交流も相互的に良い影響を及ぼすことがわかった。



3. 本事業の拡大のために

幼児教育・保育に興味をもってもらうためには、参加者を多く集めることが必要である。中高生が興味・関心を持つことを通して子どもと関わる体験をするようなイベントが望ましい。また、今年度のイベントでは、アンケートでイベントをどのように知ったかという質問に、学校で配布されたチラシが 95%、学校の先生の勧めが 62%という結果であった。この結果から学校でのチラシ配布が有効であることが明らかになった。また、先生の勧めということも中高生にとって影響が大きいことから、参加者拡大のためには、中高の先生方に職の魅力を伝えるということも必要である。

4. 本事業で見えてきた課題解決の示唆

本事業では、中高生、現職者へのアプローチは2年連続で行ってきたことで前年度の課題改善をすることで、イベントやアクティブラーニング型の研修などで成果がでた。しかし、離職者や他の業種からの流入という点で課題が残った。

離職者の職場復帰支援のリーフレットの作成において、離職者にアンケートで退職した理由、退職している間の仕事について、幼児教育・幼児教育・保育と他の仕事の違い、復職するきっかけ、幼児教育・保育に戻って感じる職の魅力について質問した。そこで、多様な働き方があること、他の仕事をやってみたからわかる幼児教育・保育の魅力が語られていたことなどが、復職を迷っている人の支援になるのではないかと考えた。しかし、配布をどこにどうすることが効果的なのかということでは課題が残っている。離職者の就職斡旋を行っている札幌市や札幌市私立幼稚園連合会とは連携してい

るが、今後本学の同窓会などに配布することで潜在幼稚園教諭等に確実に届けることを計画している。

少子化の影響で 18 歳人口は減少し続けることを考えると、離職者の職場復帰や異業種からの人材流入が幼稚園教諭不足解消には欠かせない。そのためには、特に離職者の職の魅力の再発見ということを広く周知することが必要である。

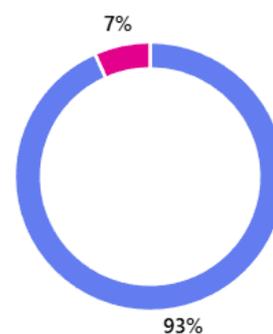
(文責 深浦 尚子)

参考資料

8 月 7 日 幼児教育・保育職フェス (大学内開催)

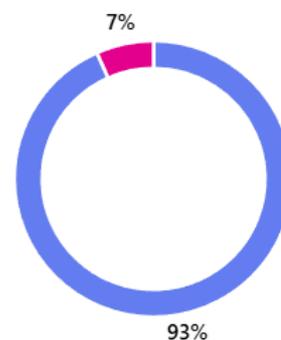
本日の子どもと一緒に工作をして遊んだプログラムはどうでしたか (0 点数)

● 満足	14
● やや満足	1
● 普通	0
● あまり満足していない	0
● 満足していない	0



. 参加者の皆さんは本日のプログラムに参加して、参加前より保育（子ども）に対する興味・関心はどうなりましたか (0 点数)

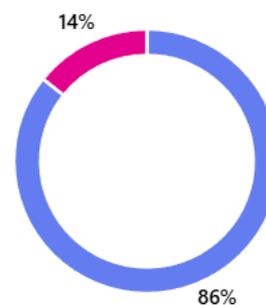
● 参加前より興味・関心が増した	14
● 参加前と変わらない	1
● 参加前より興味関心がなくなった	0



8月8日 幼児教育・保育職フェス

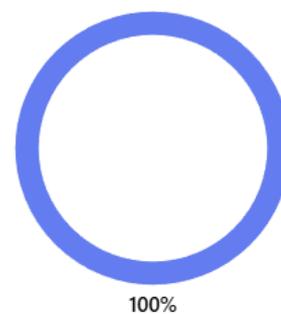
本日の子どもと一緒に運動遊びをしたプログラムはどうでしたか (0 点数)

● 満足	6
● やや満足	1
● 普通	0
● あまり満足していない	0
● 満足していない	0



参加者の皆さんは本日のプログラムに参加して、参加前より保育（子ども）に対する興味・関心はどうなりましたか (0 点数)

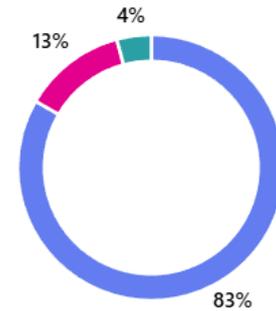
● 参加前より興味・関心が増した	7
● 参加前と変わらない	0
● 参加前より興味・関心がなくなった	0



8月9日 幼児教育・保育職フェス（札幌国際大学附属認定こども園開催）

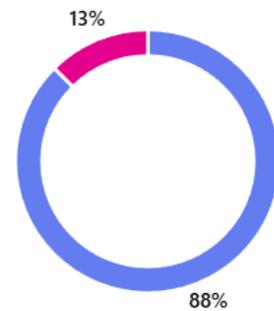
. 本日のこども園での保育体験はどうでしたか (0 点数)

● 満足	20
● やや満足	3
● 普通	1
● あまり満足していない	0
● 満足していない	0



. 参加者の皆さんは本日のプログラムに参加して、参加前より保育（子ども）に対しての興味・関心はどうになりましたか (0 点数)

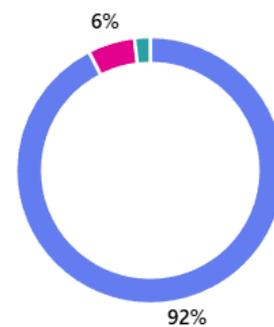
● 興味・関心が増した	21
● 参加前と変わらない	3
● 興味・関心がなくなった	0



10月27日 わくわくさんの制作あそび、あべ弘士氏講演とワークショップ（札幌国際大学）

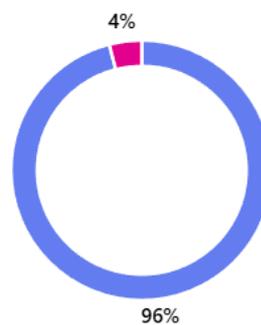
. 本日の『わくわくさんの制作あそび』の保育体験はどうでしたか (0 点数)

● 満足	49
● やや満足	3
● 普通	1
● あまり満足していない	0
● 満足していない	0



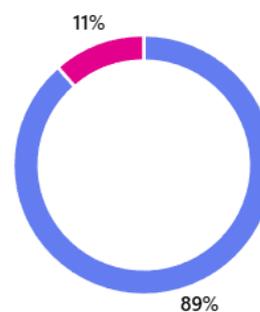
絵本作家「あべ弘士 氏」の講演 & ワークショップはいかがでしたか (0 点数)

● 満足	48
● やや満足	2
● 普通	0
● あまり満足していない	0
● 満足していない	0



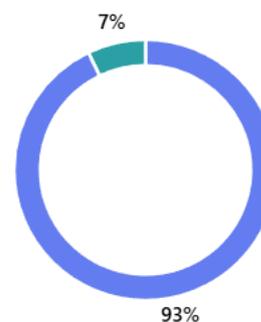
参加者の皆さんは本日のプログラムに参加して、参加前より保育（子ども）に対する興味・関心はどうなりましたか (0 点数)

● 興味・関心が増した	62
● 参加前と変わらない	8
● 興味・関心がなくなった	0



今後このようなイベントがあったら参加したいですか (0 点数)

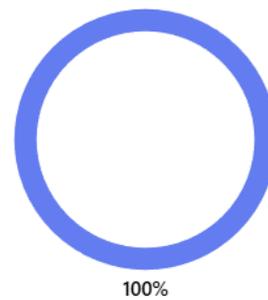
● 参加したい	65
● 参加したくない	0
● わからない	5



11月2日 わくわくさんの制作あそび (帯広)

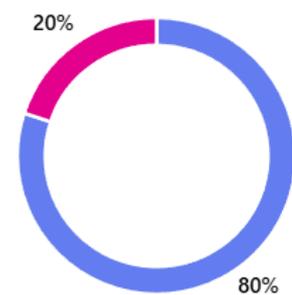
本日の『わくわくさんの制作あそび』の保育体験はどうでしたか (0 点数)

● 満足	25
● やや満足	0
● 普通	0
● あまり満足していない	0
● 満足していない	0



参加者の皆さんは本日のプログラムに参加して、参加前より保育 (子ども) に対する興味・関心はどうになりましたか (0 点数)

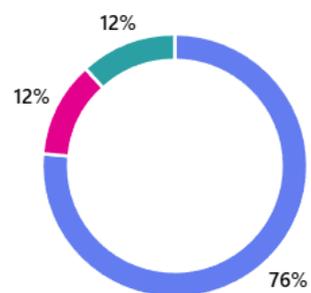
▶ 興味・関心が増した	20
▶ 参加前と変わらない	5
▶ 興味・関心がなくなった	0



11月9日 ダンス好き集まれ、幼児教育・保育ICT講座

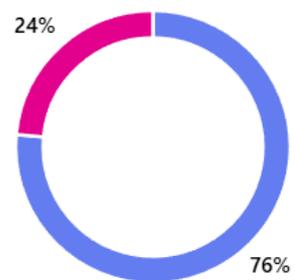
本日の『園児とダンス！』の保育体験はどうでしたか (0 点数)

● 満足	13
● やや満足	2
● 普通	2
● あまり満足していない	0
● 満足していない	0



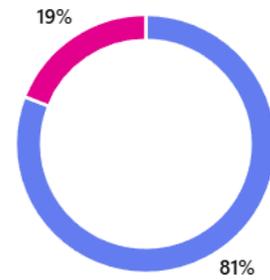
い. 保育ICT講座はいかがでしたか (0 点数)

● 満足	13
● やや満足	4
● 普通	0
● あまり満足していない	0
● 満足していない	0



5. 参加者の皆さんは本日のプログラムに参加して、参加前より保育（子ども）に対する興味・関心はどうなりましたか (0 点数)

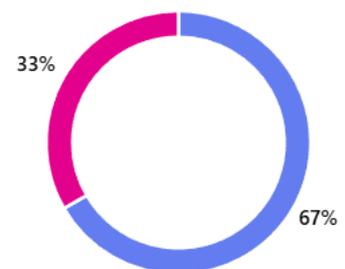
● 興味・関心が増した	17
● 参加前と変わらない	4
● 興味・関心がなくなった	0



12月7日 リズムジャンプ（北見）

リズムジャンプの保育体験はどうでしたか (0 点数)

● 満足	4
● やや満足	2
● 普通	0
● あまり満足していない	0
● 満足していない	0



. 参加者の皆さんは本日のプログラムに参加して、参加前より保育（子ども）に対する興味・関心はどうなりましたか (0 点数)

● 興味・関心が増した	6
● 参加前と変わらない	0
● 興味・関心がなくなった	0

